

課題

お互いの考えや気持ちについて英語でコミュニケーションできる生徒

- ▶ 埼玉県学力学習状況調査の結果から、本校の「外国語表現の能力」の平均正答率が県の平均正答率を大きく下回っている。
- ▶ 意識調査アンケートから、生徒は「英語を話すこと」を最も苦手としている。→間違いが怖い、自信がない。
- ▶ 埼玉県学力学習状況調査等の結果から「学力向上」が喫緊の課題であり、全教科において基礎基本の定着が必須である。

具体的な取組と工夫

■指導と評価の一体化

○帯活動の充実

帯活動を充実させ、弱点強化や基礎基本の土台作り、4技能5領域の関連とバランスを意識した言語活動を行う。

○インプットとアウトプットの接続

教科書本文や仲間の意見等をインプットさせ、インプットしたことを抽出、整理、統合させアウトプットさせる。

○意図的・計画的な中間指導

場面や状況の確認、よい表現の共有、頻度の高いミスの修正、意見を深める助言等の中間指導を通してねらいにせまる。

■外国語を活用できる環境づくり

○ICT機器の効果的な活用

言いたいのに言えない表現を調べる、意見交流を通して意見を深める、スピーチの動画を撮影し相互評価等で活用。

○英語の掲示物の活用

ALTスペースの設置、新聞記事の活用、感染予防の呼びかけに英語のポスターを活用、職員室に英語で入室等。

成果

- 単元のまとまりを大切に、指導と評価の一体化を図ることで、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組めるようになった。
- 「話したことを書く」など4技能5領域の関連やインプットとアウトプットの接続を図ることで、即興性や発信力強化につながった。
- ICTを活用することで主体的・対話的で深い学びを実現し、生徒の基礎基本の定着と自信をつけることにつながった。

課題及び改善案

- 学力差や意欲の差が大きく、ICTをより効果的に活用する等して、個別最適な学習を実現させること。
- 学力差が大きい中で、すべての生徒に「即興性」と「やりとり」を育む授業展開の研究。